



Newsletter

第5回ジョン万祭り & 高知日米協会特集

高知日米協会が発足

平成26年10月24日(金)に高知日米協会が発立されました。当日、三翠園にて設立総会が開催され、その後、設立記念パーティが行われ、総会と設立パーティには、「新老人の会」の日野原重明会長も出席し、盛大に開催されました。

日米協会とは、1971年(大正6)の4月13日に発足をし、大変歴史のある会です。全国に連合会があり、高知は28番目の連合会として設立されました。



高知日米協会設立総会

協力して子供たちが夢と希望を持てる社会を目指して行きたいと考えています。

高知日米協会の今後の活動ですが、会員の増強や会員相互の交流はもちろんなこと、劇団四季「ジョン万次郎の夢」の高知公演や、ジョン万次郎のNHK大河ドラマ化実現などがあります。土佐ジョン万も高知日米協会と

第5回ジョン万祭りが土佐清水市にて開催

10月25日(土)、土佐清水市制施行60周年と併せて第5回ジョン万祭りが開催されました。

メイン会場のあしずり港・ジョン万群像前広場では、午前は米国姉妹都市文化紹介、ハロウィン仮装コンテスト、ジョン万かるた取り大会と盛りたくさんのイベントが披露されました。

午後は記念式典が行われ、ジョン万次郎5代目子孫の中濱京氏、駐大阪・神戸米総領事のアレン・グリーンバーグ氏、ホイトフィールド・万次郎友好協会会長ジョラルド・P・ルーニー氏等が来賓で挨拶されました。



土佐ジョン万会(全国からのジョン万ツアラーの方たち十数名含む)も高知からマイクロバス2台、乗用車に乗り分け総勢50人あまりの方が参加しました。式典終了後、「にっぽん丸」の見学、万次郎の生家の見学後、夕方は恒例の第3回ジョン万サミットが行われました。

40人の挨拶・紹介から始まって、来年の第4回サミットは沖縄で開催予定を宣言しました。夜は「みんぼう」の200人を超す参

加者で大懇親会が開催されました。圧巻のトリはルーニー会長のド演歌「あゝ万次郎」、村田英雄バリのドスの効いた熱唱には、一同ビッグ・サプライズでした!

「第5回ジョン万祭り」に参加をして

ジョン万次郎直系5代目 中濱京 10月25日に土佐清水市制施行60周年記念式典 並びに第5回ジョン万祭りに参加しました。天気もいつしか爽やかな青空の下でのジョン万祭り開催となり、全国の万次郎関係者が一堂に集まった、まさに「万次郎ファミリー」のお祭りでした。

ここ数年、万次郎の話は日米で少しずつ認知度が上がってきている感じがします。日米の原点であるホイトフィールド船長と万次郎の繋がりを多くの方に知っていただき、日米友好の絆がより強くなっていくことを願っています。

今回のイベントに向けて私の著書「ジョン万次郎」をリニューアルしました。5代目として、微力ではありますが講演などを通じ、何か私もお役に立てればと思っているところがございます。

中濱京氏の書籍「ジョン万次郎」を土佐ジョン万会で販売をしています。購入をご希望の方は事務局までご連絡下さい。



1,400円(税込)

## 第4回万次郎忌の報告

平成26年11月9日(日)、東京の雑司ヶ谷霊園・中濱万次郎墓所にて第4回「万次郎忌」が開催されました。中濱万次郎が1898年(明治31)



の地に建つ銀座ミキモトブティック7階のレストランで会食をして、全国各地の万次郎関係者と交流を深めて来ました。

## 書籍の紹介

太地町歴史資料室学芸員 櫻井 敬人

ジョン・マンは、日本を離れていたおよそ10年間のうち、アメリカの2隻の

捕鯨船の上で約5年間を、そして最盛期を迎えていたアメリカ捕鯨産業の中心地であるマサチューセッツ州ニューベッドフォード周辺で約3年間を過ごした。日本を離れていた期間の経験がジョン・マンの人間形成に大きな影響を与えたというのであれば、彼をより良く知るためには、当時のアメリカ捕鯨産業を知ることが肝要である。

『クジラとアメリカ・アメリカ捕鯨全史』は、2007年にアメリカで出版された『Leviathan: the History of Whaling in America』の日本語訳である。

ジョン・マンを育んだアメリカ捕鯨の理解に役立つことを願う。土佐ジョン万会の会員である櫻井敬人氏が携わった「クジラとアメリカ」は現在好評販売中です。お買い求めはお近くの書店にて。



5,400円(税込)

山本一力講話「永国先生を偲ぶ、アメリカ取材旅行記」を拝聴して

土佐ジョン万会会員 内田 順子

山本一力さんは高知出身の小説家で、現在、ジョン万の伝記をシリーズで発表して、間もなく第5巻が発刊されるので心待ちにしています。

永国淳哉さんは坂本龍馬やジョン万次郎の研究者で指導的役割を果たしていましたが、昨年の9月に急逝されました。

一力さんのお話を聞いて分かったのですが、ジョン万執筆に際し惜しみない協力をいただいたというところで、この度は一周忌のお墓参りを兼ねての講話でした。現れた一力さんは濃い緑のTシャツに雪駄履きという姿でした。墓参をするには変わっているなと思いました。後の講話の中で訳が明かされることになりそうです。

以下講話の中で心に止まったところを書いてみます。一力さんは4年前サンフランシスコから夫人の運転するレンタカーでノーフォークへ向かいました。そこはジョン万が砂金を掘るために行ったところ。アメリカの川は鏡川と違ってとにかく冷たく、夏でも凍えるように冷たい川で、砂金を掘って万次郎は日本に帰る費用を得ようとしたのです。ハワイには仲間の4人が待っています。



一力さんは100年以上経ったその川がどんなブーツを履いても5分で感覚がなくなるほどの冷たさであることを体感するのです。

1849年の49を取って砂金採りの人達のことをフォーティナイナーズというそうですが、その人達が入り出したクラメントの街にブラックベアというTシャツ屋さんがあり、そこで買った熊の肉球模様のシャツが、着てきたこれです。

永国さんに教えられていたから買ったのです。

人からものを教わるときどういう教わり方をするのか大事なことです。

船頭の子孫に会った一力さん。身内にすら口外せず守って、穏やかに控えめに生きる当主に、土佐人の名を求めない生き方をみたようです。

今日の話がこれからの小説にどう表現されていくか、楽しみです。立ったままで話を終えた一力さんは、執筆中のいくつもの原稿の締切りを控えていて、急いで帰っていかれました。100人を超す人たちのうち、大勢が残って、さらに交流を深めたのであります。

## あとがき

今年「ジョン万祭り」というイベントに向けて、様々な準備をしてきました。来年の予定につきましては、高知日米協会との連携や中高生の弁論大会の実現など計画に基づき活動していきます。近日中に理事会を開催して決定していきます。

会員の皆様には会報誌などでお知らせをしていきます。少しでも多くの方にジョン万次郎の魅力を知ってもらえるように活動していきます。



土佐ジョン万会  
高知市塚ノ原 37  
☎ 088-843-6007  
http://johnmung.org/  
tosa@johnmung.org